

令和4年3月3日

令和3年度第4回岸和田市産業活性化推進委員会 会議録

日 時 令和4年3月3日（木） 15:00～17:00

場 所 岸和田市立福祉総合センター 3階大会議室

出席者 (委員)

石田信博委員長 藤田副委員長 山中委員 松下委員 南委員
音掬委員 中井委員 永谷委員 岸田委員 小南委員 佃委員
石田茂委員 谷口委員

(事務局)

前田魅力創造部長 上東産業政策課長 田中商工振興担当長
公文企業経営支援担当主幹 高橋観光振興担当長
栗本農林水産振興担当主幹 中島港湾振興担当長

1 開会

(事務局) 定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第4回岸和田市産業活性化推進委員会を開催します。何かとお忙しい中年度末にお集まりいただきありがとうございます。岸和田市魅力創造部産業政策課の上東です。議事に入る前に、魅力創造部長の前田よりご挨拶を申し上げます。

(事務局) 本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今年度岸和田市産業振興ビジョン、岸和田市産業振興新戦略プランの改定版を更新するため、3回の委員会、6回のワーキンググループの会議を重ねてきました。前回委員会では岸和田市産業振興基本計画の素案をお示しし、ご意見をいただきました。いくつかの修正、本年1月のパブリックコメントの結果を踏まえ、本日は素案の最終確認をしていただき、今月中に新たな計画として完成させたいと考えているところです。合わせて新しい産業振興基本計画の評価方法についてもご議論いただきたいと思います。最後までよろしく願いいたします。

(事務局) 開会の前に何点かご報告をさせていただきます。まず本日の出席状況です

が、ありがたいことに13名の委員の皆様にご出席いただいています。従って本委員会の規則に基づいて本委員会が成立していることをご報告させていただきます。本日はこの会議は公開となっており、1名の傍聴の方がいらっしゃいます。配布資料の確認をさせていただきます。《資料確認（省略）》。会議にあたってお願いがございます。携帯電話の電源はオフにするかマナーモードに設定してください。次にご発言の際にはマイクを使っただくようにお願いします。最後に前回の委員会は昨年11月29日に開催されました。その内容は、現計画ビジョンに基づいて前年度の評価結果とその文言についてご確認いただきました。その後、素案の原案として新ビジョンの内容についてご意見を受けました。これを受け本日最終案のご検討をいただきたいと思います。それでは進行については委員会規則に基づいて石田委員長にお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2 議事

(1) 新・産業ビジョン岸和田（岸和田市産業振興計画）について

(委員長) こんにちは、どうぞよろしくお願いいたします。今ご紹介のあった次第に沿って進めていきたいと思っております。まず議事の一番目について、事務局よりご報告をお願いします。

(事務局) 《資料1～3について説明》

(委員長) 説明いただきましたが、ご意見がございましたらご自由にご発言ください。概要版の変更点についてももう一度お願いします。

(事務局) 《変更点について説明》

(委員長) ご意見がありましたらお願いします。多くの方がご覧になるのは緑色の分かと思っております。

(事務局) 概要版は緑色で作り、本編は表紙が青色になる予定をしています。

(委員長) 内容については前回ご意見をいただいたと思いますがいかがですか。

(委員) 概略から見て、平たく言えば10年後の姿はどのような風に解釈すればいいですか。岸和田産業の10年後はこういう姿を目指そうという、視点は3つ示されていてこれは良いと思います。1つ目の積極的な先端産業の振興とありますが、どういう産業かという環境、デジタル、エネルギー、こういう分野の産業を誘致したり強化したりするということですね。その時に基本目標にしている「新たな魅力」はこれから作っていく魅力だと思いますが、どんな魅力を作っていくのか、素案を読んでみましたが、見えにくいです。少し書かれているのは産業拠点、貯木場であり泉州山手線かと思います。それを新たな魅力として、より充実した環境、デジタル、エネルギーの誘致を積極的に進めていく、そういう感じでよいでしょうか。一言二言で言っていただくと良いのですが、素案を読んでそこまで到達するのに時間がかかります。2点目は、緑のところの、「時代に対応した経営支援」伴走型と言いますが、伴走型で本当に経営支援はどのような体制で誰がやっていくのかが見えません。伴走型を拡大解釈すればいろんなやり方があると思いますが、まじめにやるとするとかなり大変だと思います。一社ずつ経営の課題の本質を抽出して、事業計画に盛り込んで事業を強化し、付加価値をあげていく、というのは、具体的にどのようにやっていくのかが分かりにくいです。3点目に「人材の確保」とありますが、どういう人材を育成していくのかという、環境、デジタル、エネルギーの、そのあたりのニーズがあるがその人材をどうやって確保するのか、その3点が分かりにくいと思ったので補足説明をしていただきたいです。

(事務局) ありがとうございます。1点目の新たな魅力という点はおっしゃる通り分かりにくかったと思います。読み込んでいくとそういう感じかと、今ご発言いただいた通りのご理解でいただければと思います。そのあたりをはっきりとどこかで書ければよりよかったですのですが、どうしてもビジョンという大きな計画になりますのである程度大きめに書かせていただいている点はお容赦ください。お伝えしたい点はおっしゃった通りだとご理解ください。2点目の、時代に対応した経営支援の伴走型の話ですが、確かにこれをやるのは非常に難しいと思っております。今現在もそうですが、商工会議所で日頃から会員さんへの支援を窓口でなさっておられます。大阪府の方でも支援の体制を作られています。本市でもビジネスサポートセンターで会議所や銀行のご協力を得ながらさせていただいています。この体制を見直ししながら、今後もやるべきところはやり、新たな課題にも対応できるような体制を充実させていきたい、そのことによって経営の様々な支援を続けていきたいと考えております。3点目の人材育成に関してはおっし

やる通りです。一言で言うとITとかデジタル対応にできるような人材の確保が必要でまずは1番大事かと思っております。これは製造業やどこかの業種だけではなく、あらゆる業種に横断的に必要な人材スキルであろうと思っております。本日も農業関係や漁業関係の皆さん、ご商売の方もいらっしゃると思いますがどの業種でも対応していくべき事項だと思っておりますので、一言で言うとITデジタル対応できる人材を育てていくようにしなければならぬと考えております。

(委員) 委員のおっしゃることはごもっともだと思います。先ほどおっしゃった伴走型の件を実際会議所でやっておりますが、多種多様です。その状況は変わっていてかなり難しいです。IT化もそうですが、経産省が(補助事業等)を実施してもなぜIT化が進まないのか。なかなか前に進まないのは多々あります。ふわっと書いた方がいろんな形にどう変化するかわからないので、経営指針というのは変化しますし、こういうものがなぜ売れるのかというようなものはよくありますから、おっしゃることはよくわかりますが、ふわっと、固定化しないというのが良いと私は思います。人材のターゲットについては、これは具体的なものが欲しいです。教育ですからふわっとよりも実際にどう教育するかですから、もう少し進めた方がいいかもしれません。とにかく伴走型は多種多様、相手の状況に絶対正解も絶対間違いもないので難しいです。

(委員長) ありがとうございます。ほかにご意見がございましたらどうぞ。

(委員) 基本理念のところですが、SDGsのロゴマークを使っていますね。ロゴマークがこういうものだとして初めて知って、本編では紹介されていますが普通の一般市民がどこまでこれがSDGsのロゴマークだというのが分からないと思うので、一言書いてもらおうとそのロゴだということが分かると思います。

(事務局) 空いているところに少し解説を入れる形で考えたいと思います。

(委員) 概要版のピンク色のところで、積極的な先端産業の振興や創業支援の分野で3つ、環境とデジタル、エネルギーの分野が出ています。私も大阪府でどの事業に行くか設定するのが難しいのは存じているのですが、アンケートの流れの整合性で言うと、報告書の24ページが一つの資料になると思います。私

が変えた方がいいなと思うのは、24ページを見ると表だけ目が行きます。表で言うと1位は卸小売り、2位は飲食関連、3位が環境というのに目が入ります。報告書を作る立場で言うと、ぱっと見た時に認識できるものを第一順位に掲載した方がいいと思います。もう少し内容を読み込んだ時に、文言としてこれが根拠かと思うのは、経営者の年齢で見ると40代以下がエネルギー、I o T、A I、ロボット、70代では環境と、年齢によって違いますとコメントがあるのでそれをもって概要版に来ているかと私は理解しました。その理解を一テンポ飲み込まないといけないのがもったいないです。概要版と突き合わせてダイレクトにするならば、私なら1つ目に年齢無関係のグラフとして出し、次に年齢別の分野別に置いて、概要版で言うところのデジタルが順位に上が来るというところを示します。根拠と概要版で出るところにずれがあります。ぱっと見た時に分かりにくいのです。私が自分で手直しするならば、概要版でデジタルやエネルギーが出ているのだから、それが上位に来るようなグラフを載せておかないと、食い違いが出ます。

(事務局) 確かにそうですね。24ページのグラフだけ見るとそうなってしまうので、経営者の年齢別に見ると、という文言があるので、その分をご理解いただけるように25ページに付け加える形にしたいと思います。ありがとうございます。

(委員) おそらく狙いがあって、概要版で環境、デジタル、エネルギーと載っていますが、今後5年、10年の範囲でビジョンをやっていく時に、書いたら弾(たま)があるかとよく言われます。弾がないものを書くのが苦勞します。環境に関しては、岸和田は弾があると思います。木材団地に環境分野の事業主さんがいるのでいいと思います。デジタルはI TやI o Tの業者を私はあまり存じていませんが誘致して人材育成と結び付けて市内企業の方に推進する構図だと思うのでこれからほしいという意味のデジタルですね。エネルギーは、あるというところもあるが、エネルギーと環境が似ているので、その区分が分かりませんが、エネルギーに関する弾で言うとやはり臨海地域などになりますか。弾があって3つ出しているのか、それとも希望的に出しているのかでしょうか。行けそうなところをあげておかないと、と思います。

(委員) 環境とエネルギーで地産地消を提案している企業は岸和田にもあります。環境面でどうするかということ具体的な提案をしている人もいます。そのへんはまた紹介させていただきますので、まったくゼロというわけではありま

せん。IoTやデジタルで言うと確かに岸和田は事業所を見ませんので、集めるのに苦労しています。北部の方ではありますが、引っ張ってこないといけません。補足です。

(事務局) ありがとうございます。弾をイメージしているのかと言われると、一部自信をもって「はい」と言える部分と、少し苦しい部分とが正直あります。考え方はおっしゃった通りでいいと思います。また、ITの関係は我々も今年度サテライトオフィスの誘致やそれに向けた下準備、支援をえています。なかなか実施には至っておりませんが、イメージはできると思います。エネルギーで言えば新エネルギーのイメージです。グリーン社会になりますので、我々ではゼロカーボンシティ宣言もしているのですが簡易には難しいですが取り組んでいかないとはいけません。最終的に計画の10年以内には無理なのですが、木材コンビナートで将来的には水素関係のエネルギー関係を誘致していきたいという思いはございます。10年の短期間で言うと新エネルギーの中では太陽光発電になりますので、そのような企業や太陽光発電をするための用地を提供していければと思っています。

(委員) 概要版の方で、記載内容ではなくデザインインターフェイスの話です。1～5章の章立てで来ている分はいいと思います。それ以外の振り返りなどの部分はメリハリでいうと、カラーを変えてしまうことで、章でやっていることが、ここもカラーを変えることにより、ここが違う区分だという部分が問題になると思います。例えば浮き出し方式などで独立したものだということを、通常はデザイン上そうされるかと思いますが、3章と4章との兼ね合いもですが、3章の中に4章が包含される記載方法になってしまっています。4章は3章と完全に分離して、3章から飛んできた形で矢印の誘導など、次に4章に向かっていくような目線誘導がデザインインターフェイス上必要かと思いますが、可能であれば配慮いただいた方が、今の状態では3章の下に4章があるような形になってしまっています。

(事務局) ありがとうございます。デザインを考えてみます。

(委員) 振り返りの部分はなくてもいいかと思っていたので、わたしも同感です。これがあることで次元が違うことを並列化することになります。

(委員長) 今のご意見を一度検討してみてください。他にご意見がございましたらどうぞ。

(副委員長) 基本目標3の基本方針5で、次代を担う人材の確保と育成という話が出てきますが、どちらかというとリカレントが中心に計画が策定されているように見えますが、産業高校がありITの基礎的な人材育成はしておりますので、そういう部分の記載を置いた方がいいと思います。上で出てくるIT企業やオフィスとの絡みもあり、人材定着について持たせておいた方が、せっかくある素材を活かしていった方がいいと思います。もう一つはそういうところで学んだ子ども達が創業して行って定着してもらい、それは少し欲張りかもしれませんが、これは前期計画なので後期計画で考えてもらえばいいのかもしれませんが、そういう部分で含みを持たせる内容で施策を考えた方がいいかと思うのですがいかがでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。確かに先生がおっしゃる通り、学び直しに重点を置いて記載している部分が多くあります。和歌山大学ともサテライトを置いておりますので、和歌山大学とのこれまで以上の連携は当然イメージしております。記載というより実際にこれを受けてやる施策の中で考えていった方がいいというご意見であると思うので、また具体化する際にご相談させていただきます。

(副委員長) ありがとうございます。サテライトも含めてリカレントは支援させていただきたいと思います。

(委員長) 他にありますか。

(委員) 一つ質問をさせていただきたいのは、計画推進の方策のところですが、まちづくり計画の一環として、とありますがまちづくりなのか、総合戦略ですか。

(事務局) おっしゃる通り総合戦略のことを思っています。その体系化された中で新・産業ビジョン岸和田も推進していくという形です。

(委員) そうですね、そこが少し分かりにくかったので何とかならないかと思いました。もう一つは、具体的に素案に書かれていく事業として進んでいくわけですね。事業は今やっていることがほとんどのような感じがします。これは10年後を見据えてやろうという計画なので、今やっている事業がそのまま10年後に到達するなら良いですが、毎年PDCAで見直していくわけですね。目標を到達するのに効果的な、新たな事業を生まないといけません、それが見えません。おそらくやっていく中で修正や見直し、新たな計画を出していかないといけません。同時に世の中の環境も変わっていきます。それに応じてスピ

ードを負けないようにしていかなければなりません。この立案はどのような仕組みで作っていく予定ですか。

(事務局) 次の議題の評価方法とも関係してきますが、この中で言うと基本方針の1-1から6-2まで14の方針があり、方針ごとにどういった事業をやるのか具体的に当てはめていき、毎年ワーキングを開催させていただき、どこまでできてどこまでできていないかや、新たな事業の計画を皆さんからご意見をいただいたうえで次年度の予算要求も含めて提案し、新しい事業に繋げていきたいと思っております。

(委員) ワーキンググループですが、今度は施策の数が少なくなったので一つ当たりの時間が増えるかもしれないですが、ほとんど時間がありません。PDCAサイクルは一年ですから、普通では長いように思います。少なくとも半年に一度くらいはやらないと難しいのではないかと思います。さらに新たな事業を立案していくというのはかなりしんどいと思います。

(事務局) 市の予算の関係で言うと、4月から始まり3月に終わるという形で年度ごとに決まっています。それを予算案として編成するまでにどういった事業を来年度していくか、まずは議論をしたうえで予算案にしていきます。今回もワーキング会議の中でこの事業はできた、できなかったというところを皆さんからご議論していただいて予算案に反映していくこととなります。役所のサイクルで言うとやはり年間で実施していきたいと思っております。

(委員長) ありがとうございます。ご意見をいただきましたのでそれを含めて修正をしていただき、修正部分を含めてこの方向で行くということでしょうか。また修正が入りましたら委員の皆様にご確認をいただきたいと思っております。議事2に入ります。

(2) 評価方法について

(事務局) ≪資料4、5について説明≫

(委員長) ありがとうございます。前期計画の評価シートをお示しいただきました。資料5は新・産業ビジョンの事業をまとめていただき、評価の方法をまとめていただいています。資料4は例として、もしやるとしたらとどうなるかというやり方の事例を説明していただいています。ご意見はございますか。

(委員) 資料4と5について拝見して、記載例を見せていただき整合性があると思うの

ですが、具体例に挙げていただいた創業の件数について気になりました。岸和田もそこそこ人口がいる中で、商工会議所でも創業支援を熱心にしていただいていると思います。商工会議所は大阪府の補助金の加減で、具体的な数値目標を全部あげて、すべて一年間を実施する前に大阪府に提出して、その実績に基づいて次年度も補助金を算定するサイクルで成り立っていると思います。年間12件くらいの創業支援のサポートが会議所の目標になっています。岸和田の規模で年間10件の創業件数が目標と書いて実績もそれであるのに違和感があります。件数の数値の拾い方がおかしくないかと思います。この市の規模なら月10件あってもおかしくないと思います。実際にはそれ以上されていると思います。補足の話で言えば、民間でも法務局の新規法人のデータベースや税務署の開業届の件数を拾いに行つて情報公開してもらう方式があると思いますが、創業件数の強化が挙げられているところでもあるので、新年度の計画にも大事な数字かと思います。数字の拾い方に現実と乖離があるので、そこに誤りがあるのなら修正された方が良くかと思いました。

(事務局) ありがとうございます。創業の件数の拾い方は、特定創業支援事業といって岸和田市の創業支援計画の中で、商工会議所で創業セミナーを受けるか創業個別支援を受けていただくかで特定創業支援事業の証明をさせていただき、その中で拾った数字になっています。特に創業時の販路開拓補助金についても、特定創業支援事業の証明を持っていないと補助金の申請ができません。ですので、市の施策に関与した方で、創業した数を把握することになります。税務署や法務局の数を開示するというやり方もありますが、それは市が支援した数ではないということで、今のところはこういう形で拾った数字を開示しています。

(委員) 母数がどれくらいいて、特定創業支援事業を受けていただいた方が、法人を立てる時にも登録免許税が半額になるなどメリットがあるので、二段構えで市が支援する母数の把握をやっておかないといけません。Kishi-Bizがされている体制が足りているのか、商工会議所さんの創業支援の人員を手厚くするか、など母数の管理は一定数大事かと思います。

(委員) 事業とは、もっと基本的には自由なのです。頭で考えて商売をするのではなく、商売をやる時はそうなのですが自由にやって、その時に足りない金融の知識などを会議所等でカバーをします。事業をどうやって自由にやらせるかが創業支援の一つです。役所のことだから、ある程度フォローアップは大事だと思います。もっと柔軟に考えた方がいいでしょう。計画はないとややこしいし、役所もやるのが大変ですから無計画にやることはできませんが、しば

りつけることはかえって前に進まないのです、しぼりつけないところへ行くのがいいです。実際マッチングをしますが、データベースが少ないなど、頭で考えてやることと実際にやることは違います。商売とはそんなものですから、あまりしぼりつけることをせずにできる限り自由な枠の中で方向性がそれないような、やわらかいほうがいいと思います。商売は自由にやらせた方が新しくなります。先ほど少し言いました、エネルギーの地産地消と提唱しているのは全く新しいことを言っています。事業も実際にそのレベルのことも持っているのですがなかなか法的な意味を含めてできないのです。計画ですからある程度仕方ありませんが、できる限り柔軟にできるようにしておいてほしいと思います。

(委員) 2-1の創業支援の評価の、「様々なプロジェクトと連携し、空き店舗など未利用不動産を活用した総合の取り組みを推進支援」というのは不動産も応援してくれるということですか。これを書いて空き店舗を支援してくれるのですか。

(事務局) 基本施策なので、こういう方向で施策を考えてやっていく方向です。今のところ事業にはなっていないです。まだ内容としてはないです。

(委員) 不動産を手伝ってくれたらそれはありがたいことですよ。

(事務局) ありがとうございます。支援を検討ですから、買い取ってということもそうですが、頑張ってくださいというのも支援です。ここは、空き店舗もそうですが、社会問題になっている空き家の問題もあります。空洞化していることが問題だと認識しているので、解決方法を、委員会をはじめ、店舗の持ち主さんや建物持ち主さんにご相談し、社会全体の課題として解決していくことを行政として考えていく、その中で必要に応じて検討しなければならないということです。具体的にあるかないかは未定ということです。また、創業件数の年間目標が10件でいいのかという件ですが、そもそもそこにこだわりすぎて硬くなるのもいかなものかというお話です。ここは、あくまでこのプランの進捗状況を把握するための一つの指標として創業の件数を出していき、それを何らかの基準をもって一定経年的に追いかけていきたいということです。実態として19万人の岸和田市内で創業がどれだけ起こっていて、それが今後どうなるかを把握することが目的なのではなく、このプランの効果やプランに基づく施策の効果の評価として取っていききたいということです。これが全てではないですし、これが正解ではないかもしれないことも理解しながら、指標として市が関わっている分だけを拾っていくことが本当に正しいか検証し

つつ、何らかの形で最終判断して設定していきたいところです。

(委員) 今の話に関連して、シートのそれぞれの指標、例えば創業件数に関してあるようにいろんな取り方があります。何らかのものを掲載する時の出典を記載した方が良いです。委員が指摘された創業件数の数え方と事務局が説明された創業件数の数え方が食い違っていました。食い違いをパッと見てはわからないし、一般の方はもっとわかりません。だとすれば創業件数（市がしている事業の申請提出件数）というように出典を明記した方が良いです。例えば観光客数というのがありますが、どこに聞いたかというものです。行政の資料は一般に見ていただいた時に、どこから持ってきている数字かというのを明確にしておかないといけません。観光入り込み客数はどこがとっているのか、例えば大阪観光局が取っているデータで岸和田がもらったものなのか、だんじり会館の入り込み客数なのか、というようなことです。それぞれの出典をシートの左のところに書くだけでいいと思います。厳密にはあまり細かいことを言いませんが、それを四半期にいちどなのか作る時に取るのか、いつの段階で取るかというのもありますが、それは明記はなしでいいと思います。

(事務局) おっしゃる通りで、そのようにいたします。

(委員長) 他にありますか。今日の議事は何かを確定するなどの趣旨はございませんので、ご意見がありましたらなんでもおっしゃってください。

(委員) 私も大阪府でやっている事業のいろいろな進捗管理をするための指標を作っていますが、これは悩ましいところがあり、例えば創業で言うと創業件数の実績が2と結果が出ています。結果を書くのがいいのかプロセスを書くのいいのかというのがあります。相談事業の実績で言うと28件相談を受けたとあります。28件何かをやって、結果が2件だったということです。28件に関しては、行政コストはかかっています。なるかならないかは分からないけれど支援はしている内容なので、28と言ってもいいかもしれません。結果を書くかプロセスを書くかは、最後のいいところを取ったり両方を取ったりするなどとするとよいです。創業に関しては結果で書くともものすごく少なくなります。プロセスで書くと結構相談を受け、結果創業には至らなかったが誰かを手伝えることになって副創業しているとか、事業承継で言うところのベンチャーになっているなどあります。せっかくなので評価シートを作る段階で評価の指標とそれぞれの施策のパフォーマンスをどこで計るのが一番いいのか、行政的に分かりやすいのかを再検討した方が良いです。今見ていると前の形をそのままとっているの、見直した方がいいと思います。

(副委員長) 評価シートは前のシートからは全体的に見やすくなった印象があります。特に個票のところは前と比べると随分見やすくなったイメージです。一覧表の方は、初年度がこうだとすると、一年ごとに一冊ずつ作っていくイメージなのか、どんどん足されて、圧縮されていくイメージなのか、どちらのイメージで作っていく予定ですか。

(事務局) そこまで想定をしていなかったのですが、一年間の振り返りで思っており、シートの個票があり、それを集約したものを年間で示したいと思っています。これを経年でやるとなると結構な量になるので、今のところアイデアはないのですがまた検討したいと思っています。

(副委員長) それを伺って安心しました。岸和田市は高齢化が進んでいく中で、字が小さく詰まっていくと見るのが厳しくなるというのがあります。個票がずっと経年変化を追えるということであるならば、一冊ずつ更新していくので十分だと思います。そういう形でよいかと思います。

(委員) 評価シートの推進の仕方ですね。一年参加させていただいて思うのは、計画に対して実績が、達成した場合は良いのですが達成しないという時、なぜ達成しなかったのか課題は何なのか、課題を明らかにしないと次の計画が出てこないです。そこの掘り下げが弱いです。同じ計画をずるずるとまた5年続くのかと思案しています。この時点で例えばこの記入例で、「次年度はさらなる周知を図る」ですが、どのように周知徹底していくかを計画に書かないと、周知を図るだけでは進まないと思います。これがPDCAの進め方だと思いますが、この時に担当課のコメントがつく際、もう少し具体的に課題は何なのか、課題解決のためのどんな事業をするのか、掘り下げるのは難しいかもしれませんがそこまでしていかないとなかなかPDCAの質が上がらないと思います。

(事務局) そうですね、記入例に書いているのは周知を図るしか書いていないので、なかなかこれでは具体的に分からないと思います。資料5には担当課コメントではなく、成果、課題となっており食い違っておりましてありますが、担当課コメントよりもどんな成果が上がって課題は何なのかを書くようにしたいと思います。ありがとうございます。

(委員) 評価の方ですが、年間に書いている項目がありますが、地蔵浜地区と港緑町付近の空いているところがあり、水産関係でやりたいところがあったので聞いてみると、規制があるので使えない。港緑町のところで聞いてみても匂いの

するものはダメだと、あれはダメ、これはダメでなく、もう少し力を貸してほしいです。旧港地区はいろいろしているが人は寄らないし、今の地蔵浜地区のところも遊んでいる土地がたくさんあるのに使えない。使いたい人もいるので企業を誘致するという事を考えてほしいと思います。こちらも水産業も加工業者を入れていろんなことをしてもらわないと魚も売れないです。ここをもう少し考えてくれますか。なんとかして企業を入れたら市も助かると思うのですが。税金を落としてもらえるところを誘致する方法を考えてもらいたいと思います。

(委員) 今言われたように、金を持っているだけで、土地を持っているわけではないのです。それはそのままの状態では使えないので、今言われたようにいっそのこと規制をかければよいです。別の規制がかかっているが、無意味に持っているところが何か所も出てきます。その地区を繁栄させようと思ったら、何らかの形で規制をかけて、何かに使わなければ何かにしなさいというようなことをやっていかないと、とてもじゃないが無理です。それが現実です。その辺の計画などはとてもじゃないけれどしないだろうと思いますが、その辺をよく見てやる必要があります。頭の中では、実際に何が起こっているかわからないので、役所でそれをやってくれというのは難しいのはよくわかっています。そのあたりの現実を見てほしいです。港のところはたくさん余っています。それでも全然使えないのです。私も一緒になって見に行ったら、びっくりしました。その辺のことをどうやって活用するか、一度規制をかけてみるといいと思います。

(事務局) ご意見は確かに聞きしましたし、理解をいたしました。臨海部は実際に大きな工場や倉庫を作りたいが土地はないかという相談はたくさんいただくのですが、ご紹介できていない状況です。たくさんあるよねという話ですが、実際に目的の用途に合った部分で使える土地はほぼないと理解をしています。土地は使ってこそで、そこで何かを生み出して価値が生まれ、我々も税収が入ってくるのですから活用いただきたいのは山々です。一方で、そこだけ見れば確かにそうですが、まちづくり全体で地域の均衡発展という意味で言えばすぐ隣に住宅街があったり、不特定多数の方が集まるショッピングセンターがあったりもするので地域の中でそこで適切に利用していくために規制がかかっているというようにご理解いただいていると思います。ただ、今おっしゃっていただいたような時代に合っていないだとか新たなニーズが生まれている中で一定見直しは必要です。大きな見直しでなくとも個別対応の見直し等をしながら、漁業の方では特に旧港地区の活性化をいただいていますし、今後旧港地区の一部規制緩和、見直しも進めておりますのでそのあたりも見

ていただきながら今後ご支援いただければと思います。

(委員長) ありがとうございます。ほかにご意見はよろしいでしょうか。今ご意見いただいた内容を盛り込んで修正いただく方向で行きたいと思います。来年度の委員会になります。そちらで提示していただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

(3) その他

(委員) 一点だけよろしいですか。概要版を内容的に示していただいている方向に異論はないのですが、よくあるのが私は農家の代表でもあるし事業もさせていただいているのでぜひお願いしたいことは、総合計画があつてそれに基づいて新・産業ビジョン岸和田が計画され、パブリックコメントがあつて正式に策定されることになるとは思います。策定された時がスタート台に立てたということだと思います。これを官民で協力して進めていくことになるのでそこからが大事だと思います。よく失敗するのは、出来上がったのでということでゴールではありません。先ほど委員からもあつたような計画の推進という部分で少し危惧しております。とらえ方は違いますが、これを一般市民の方も含めて組織体がすっと消化できて力になるかどうかだと思います。また、少し側面が違つかもしれませんが、農業漁業についても基本方策の4-3に記載されていることについて、ここに記載のあるキーワードとして地産地消とスマート化、独自化と出ていますが、一農家の人がスマート化というキーワードで何か起こそうと思った時にどこに相談すればよいのか、どんなしくみと予算とマンパワーが用意されているのか、策定された以降認識を浸透させてもらわないと、進捗は難しいと思います。行政だけで進捗できる課題はないですから、一般市民がどれだけ認知し、活用し、消化できるかの問題だと思います。このことを変えたり進捗させたりさせるための、車で言うエンジン部分がどこに存在してどう活用させるか、その見える化を徹底してやっていただかないと、作っただけでは意味がありません。そこからがスタートだと思います。それだけはくれぐれもお願いしたいと思います。農業をする人も、そのキーワードに興味を持った時点で、次に一緒に官民が協力するという形になれるか、そこは徹底してお願いしたいと思います。言葉はよく見る言葉ですから理解はできますが、それを具体的に進めていくとなった時に、用意されている部分の提示をよろしくお願いいたします。

(事務局) 今いただいたご意見をもとにまた進めていこうと思います。ありがとうございます。

3 閉会

(委員長) それではいったん終わり、事務局の方から来年度についてご報告をお願いします。

(事務局) 皆さん長時間にわたりありがとうございました。特に今回で4回目の活性化委員会を開催させていただき、慎重審議をいただき、ご意見をいただきありがとうございます。今日の最後の最後まで様々なご意見をいただきました。一部加えて修正しながら、本計画について最終提案という形で策定して、それを具体的に組み立てていく形にしたいと思います。最終の冊子等については、来年度5月の次期活性化委員会で提示させていただきたいと思います。日程についてはまた近づいたらご照会させていただいて決めたいと思うのでよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

(委員長) 本日はありがとうございました。以上で岸和田市産業活性化推進委員会の会議を終了いたします。ありがとうございました。

以上